

# 幼年期福祉演習レポート

鳴門教育大学大学院 人間教育専攻  
人間形成コース 内藤 友香

## 題：食事場所決定に深く関わる会話

目的：一緒に食事へ行くメンバーの嗜好をお互いがどのように考慮し、最終的にどのように食事場所を決定するに到るか。

### はじめに

一緒に食事へ行くことになることはよくある日常風景の一場面であるが、そこで、我々は、いかにお互いの嗜好を考慮し、食事場所を決定するに到るのだろうか。

本研究は、女性 3 名の食事場所決定に至るまでのある一断片を取り上げ、そのトランスクリプトを作成し、その会話分析を行った。

### 方法

撮影および録音は、デジタルカメラを使用し、3名の視線、表情、非言語表現等ができる限り映るよう設置し、行った。なお、協力いただいた3名には、事前に本講義（幼年期福祉研究）レポートにて、会話分析が必要である旨を伝え、撮影、録音の許可を得ている。その際、プライバシーの保護等の観点から、個人の特定が行えないよう画像は変換する旨も伝えた。

会話分析を行う際、3断片に分け、その分析を行った。

### トランスクリプトと静止画

引用時間：2分43秒～3分50秒

（断片1：2分43秒～2分54秒、断片2：2分54秒～3分13秒、

断片3：3分13秒～3分50秒）

断片 1 (2分 43~2分 54 秒)

01 A: >かかし<行ってからの 家で飲みみたいな?

02 B: hhh[h

03 C: [飲みたいんや?

04 B: やっぱ飲み明かすほうが

05 C: 飲みたい。

06 A: >いやいやいや<、どこ行こっか

07 B: [エー

図 1 A へ問いかける C



断片 2 (2分 54 秒~3分 13 秒)

01 B: でも、飲むんやったら、それこそべつに

02 B: >安く 済まそ<思ったら家飲みやけど[さ]あ。

03 C: [うん((うなずき))

04 A: [でもさ

05 A: [どうせなら]さあ一回さあ行きたくねえ?

06 C: [どうせなら]

07 B: でしょう?((A を指さしながら))

08 C: うん((うなずき))行きたい。

09 A: >秋田町行きたくねえ?<((B を指さしし、すぐに腕組し直す))

10 B: なるなるなる。

11 C: 行きたい。

- 12 A: 一回行きたいんよ!ほんまに行きたいんよ!  
 13 B: えー、秋田町で飲んだことないってこと?  
 14 A: [一回]  
 15 C: [一回]  
 16 B: 一回ある

図2 Aへ同意を求めるB



断片3 (3分13秒~3分50秒)

- 01 C: 日本酒が飲みたい。  
 02 B: hhhhhh  
 03 C: 日本酒が飲みたい。((小刻みにうなずきながら))  
 04 A: お片付けを気にせず[な。  
 05 C: [あー、それぞれそれ.宅のみだとね。  
 06 A: ((うなずき))  
 07 C: ((うなずき))  
 08 A: でもなんか、いいんよ、何でも、とりあえず  
 09 C: [何でもいい。  
 10 A: 千年でいいな[あ?  
 11 C: [千年でいいなあ?  
 12 B: [hh  
 13 C: 和[民でもいいなあ?  
 14 B: [何がね、千年の宴とかがね、えっとねえ、なっ (1.4)2時間が90分 飲み放でえ、2000円しない(0.8)よ。

15 B: だけえ そこで、安くってえ とりあえず、胃袋と お酒のある程度を満たして  
おいて そっから 味をこだわりに行け[ばそっちの方が賢いと思う!

16 A: [確かに

17 C: 賢い

図3 日本酒を飲みたいことを再度訴えるC



### 結果および考察

まず、断片1において、01でAが飲みたいことを主張している。02でBの笑いにより、Aの主張が無くなったかのように思われるが、その後03でCにより再びAに対して、お酒を飲みたいという意味の確認がなされる。そのCの言葉から、Bは04で一晩中飲むことを提案する。そして、05でCもA同様のみたい旨を主張する。ここまでは、飲みに出るかどうを中心にして会話が繰り広げられている。そこで、06でAが具体的にどこへ行くかを話し合おうという提案を行っている。

断片2では、Bが出来るだけ安く飲むなら、誰かの家で飲んだ方がよいことの確認をとる(01、02)。それに対して、03でCは“安く飲むなら誰かの家で飲むことが安く済むことであることは確かである”といった同意を示す。しかし、04でAは、飲むなら、繁華街で飲みたい旨を主張するため、05で「でもさ」とBの「家飲み」を否定し、08で「どうせなら」という言葉を使い強調する。09でのCの「どうせなら」からも、同じ飲むなら、繁華街に出たいことをAと一緒に主張している。10でのBの「でしょう」という同調は、03でBは安く済ませるなら誰かの家で飲み、お金がかかってもよいなら、どこかへ飲みに出ることを想定していたことが考えられる。ここまでの、3人とも飲みに出たいという意味は同じであることが読みとれる。このことから、飲み屋街である“秋田町”へ出たいことを09でAが主張する。このAの主張が12において、強い形で繰り返される。12では、「一回行きたい」としかAは言ってない(どこへ行きたいかは述べてない)にも関わらず、B

は 13 で「秋田町で飲んだことがないのか」を聞いている。また、12 と 13 での“秋田町”が意味することは、単純に秋田町へ行くことではなく、“秋田町のどこかの居酒屋で飲む”ことを指している。そのため、B は、12 の A の「行きたい」という主張に対して、「飲んだことがないのか」を聞いていると考えられる。

断片 3 では、01 での C の発言を聞いて、B の笑いが入る(02)。しかし、03 で再度 C が日本酒を飲みたいことを小刻みなうなずきとともに主張する。04 で A が「お片付けを気にせずな」という発言は、A が 01 と 03 での C の主張は日本酒を飲むことで酔いたいという意味であることから、出たものだと考えられる。そして、05 で B が指す「それ」とは、直前の A の発言から、“片付けを気にしたくない”ことである。08 で A は「何でもいい」と言ったことから、09 で C も A に同調している。A は 09 で C が同調してくれたことから、“私たち 2 人はお店にこだわりはない”という意味を示すため、10 で C に対して「千年でいいなあ？」と同意を求め、C も 11 で 10 の A の言葉を繰り返すことでその意思を表明している。10、11 での「千年」が何を意味するかは、13 での C の「和民でも」という発言から、チェーン店であることが分かる。A と C の 08~11 の発言から、B は 2 人はチェーン店でもよいから、居酒屋へ行きたいことを受け取り、10、11 で出てきた“千年の宴”が学生にとってはリーズナブルに飲むことができる店であるという情報を提供する。また、B はできるだけ安く飲みたいという意思をここで示しており、そうできるように 2 人を誘導できるよう 15 の発言へとつながっている。そして、16 では A が「確かに」と、17 で C が 15 の B の「そっちの方が賢いと思う」の「賢い」を繰り返していることから、B の主張が受け入れられたと考えらる。

## 感想

同じ言葉を同じ発言者が繰り返せば、強調となり(例えば、断片 3 の 01・03)、同じ言葉を違う発言者が繰り返せば、同調となる(例えば、断片 3 の 10・11)といったことがよくわかり、とても面白いと思いました。